

キヤノン株式会社

2018年第3四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

Q1. レンズ交換式カメラの引き下げについて、予見できたように思えるが、今回の引き下げの要因を改めて教えて欲しい。

A1. これまでエントリークラスを通して新規顧客層の獲得に注力してきたが、一服感がでてきたことがこの3Qの特徴の一つである。また、各社がミラーレスのフルサイズモデルに参入するといった情報が消費者の関心を集めていた。そのことが買い控えにつながったことが大きい。これは一方でミラーレスに対する期待が大きいことへの裏返しでもあり、現時点での当社新製品への反応はポジティブである。今後はミラーレスでも引き続きラインアップを強化し、レンズ交換式カメラの中でも比率を向上させるなど、ミラーレスを一つの軸として拡販していく。

Q2. エントリークラスが厳しいとのことだが、一眼レフのフルサイズモデルを有する貴社においては、ハイアマ以上においても影響があったのはないか。影響が大きかったエリアを教えて欲しい。

A2. 金額的にはエントリークラスが大きいですが、フルサイズモデルを含むハイアマ以上も影響がなかったわけではない。

Q3. 一時的な要因で引き下げたと説明のあった有機 EL 蒸着装置について、来年以降はどのようにみているのか。

A3. 今回の有機 EL 蒸着装置の引き下げは、販売時期がずれたことに起因しており、先行きの成長性に懸念は抱いていない。

Q4. 3Q 末の在庫水準は高いように思える。現在の水準をどのように捉えているのか。

A4. セグメント別にはイメージングシステムとメディカルシステムが比較的高い水準になっている。イメージングシステムは、販売が想定に届かなかったことによる販売在庫と年末商戦に向けた仕掛品の増加といった要因が混在している。早い時期に解消すべく、対処していく。メディカルシステムは、9月累計で微減収であるものの、4Qの商戦期を利用しながら年間での増収を計画しており、また、足の長い製品という特性からも、仕掛品を中心に在庫が膨らんでいる。海外での年末商戦期に向かって受注は増えている傾向にあり、これが予定通りに販売につながれば在庫は適正化されていく。

Q5. 米中貿易摩擦について、貴社のビジネス上の影響はあるのか。また、取るべきアクションなどがあれば併せて教えて欲しい。

A5. この事象については、米国通商法 232 条と 301 条が関連しており、232 条については、対象が鉄と鋼とアルミ製品ということもあり、該当製品がないため、影響は出ていない。一方、301 条は現在第 3 弾まで発動されており、中国での現地生産品として一部のプリンター消耗品や付属品などで影響が出るが、影響は極めて限定的である。また、対応はまだ取っていないが、必要に応じて日本および他国に生産移管することも可能。ただ、今後の動向によっては、日本を含む周辺国にも影響が出る可能性も否定できず、引き続き注視する必要がある。

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。